

# コミュニカティブ・アプローチに基づいた 中学校での授業スタイル例

平出 敏

## 1 はじめに

2度の世界大戦を経験して疲弊した欧州は、欧州議会で平和への取り組みを話し合った。多民族、多言語、多文化で十分なコミュニケーションが取れていないことが課題となった。これからは、母語と近隣の言葉、その他に1つと3言語が使えるようにすることが目標となった。40年に及ぶ研究を通して、言語能力の共通の指標としてヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR：Common European Framework of Reference for Languages）を定めた。初歩からA1,A2,B1,B2,C1,C2の6レベルを定めた。それぞれの指標は、「～することができる。」という行動目標(CAN-DO リスト)で示された。また、「話すこと」を「やりとり」と「発表」に分け、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5技能に分けた。

日本でも研究が進み、CEFR-Jが発表された。A1の前にpre-A1レベルが加えられた。この指標にあてはめると、中学校卒業時にA2レベルを達成することが目標となる。本稿は、その目標を達成するために、コミュニカティブ・アプローチ(communucative approach)を取り入れた1単位時間の授業スタイル例の紹介である。

一方、日本の英語教育では、長らく文法訳読式の授業が続いていた。1975年、平泉渉、渡部昇一の「英語教育大論争」が起こり、「役に立たない英語教育」という批判がおきた。改善策の一つとして、1987年、英語指導助手招致プログラムが始まった。

そこに、欧州評議会で開発されたコミュニカティブ・アプローチが紹介され、ペアやグループなどの言語活動が取り入れるようになった。しかし、一つ一つの活動がばらばらで、場当たりに言語活動が行われていることが多い。

これでは、CAN-DO リスト方式の到達目標を達成することが困難だと思われる。そこで、一つ一つの活動が統合された指導法が必要である。もとは、語学教育研究所創立者ハロルド・E・パーマーのオーラルメソッド（口頭教授法）に基づき、語学教育研究所の「基礎講座」講師の小菅和也、小菅敦子、江原一浩、淡路佳昌、山崎勝が講義している指導法を参考にしている。生徒が自主的に英語を話す活動が多く、今、話題になっているアクティブ・ラーニングにつながる。

絵や写真を見せ、英語が使われている状況をはっきりさせながら、英語で生徒とやり取りをし、文法事項や題材を導入する方法を具体的に紹介する。

## 2 オーラル・イントロダクション(Oral Introduction)

絵や写真を見せながら、生徒と英語でやりとりをしながら、文法事項や題材内容を導入する。絵や写真をマグネットで黒板に貼り、その下にヒントとなる語句を書くことによって、新出語句の導入や練習ができる。文法事項と題材内容に分けて紹介する。中学校では、文法事項の導入があるので、最初に、文法事項の導入から紹介したい。

### 2.1 文法事項の導入

#### 2.1.1 文法事項用オーラル・イントロダクション用の絵や写真の収集

文法事項のオーラル・イントロダクションには、基本文の紹介と基本文の練習がある。

準備段階として、基本文を読み、誰が、どんな状況で言っているのか分析し、英文が使われる状況を再現できる絵や写真を集める。絵や写真は、教科書の挿絵や、デジタル教科書の絵や写真、インターネットが便利である。インターネットの検索で、「画像」を選択するとたくさんの絵や写真を収集できる。

また、基本文練習用の英文は、教科書や副教材から集めるとよい。こうすることによって、生徒は、二度三度、同じ英文に触れることになり、定着しやすい。

#### 2.1.2 文法事項用ピクチャー・シート（板書計画書）の作成

基本文や練習用の英文が準備できたら、板書計画をたてる。絵や写真の並べ方やその下に書く語句を考える。これを1枚の紙にまとめたものをピクチャー・シートと名付けている。次の基本文で、具体的に紹介する。

基本文 22 The dolphin is larger than the tuna.

The blue whale is the largest of all animals.

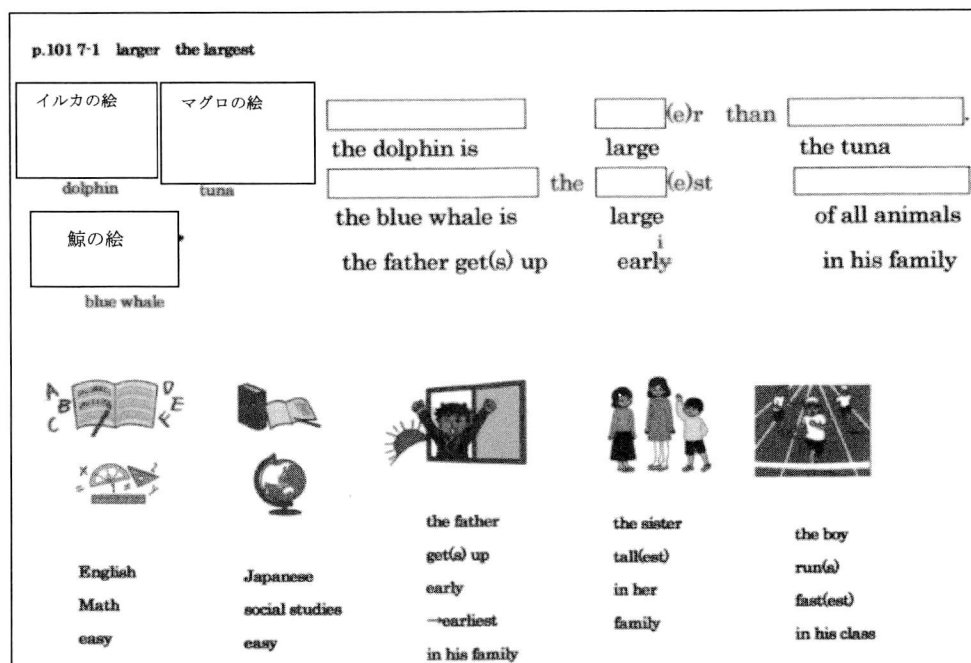
下の図のように（図1）、文字が入るところを白抜きにすると、パターン・プラクティスをするときに便利である。基本文は、□の下に書く。

図1 白抜きの基本文例

□	□(e)r than	□
the dolphin is	large	the tuna
□	the □(e)st	□
the blue whale is	large	of all animals

全体は、次ページのピクチャー・シート（板書計画書）（図2）になる。ピクチャー・シートの上半分は基本文で、下半分はその練習である。一通り英文の紹介をしたあとで、もう一度全員で練習をする。窓側の列の先頭から一人ひとり指名し、英文を言わせ、列の最後の生徒が言い終わると、教師が class といって、全員で英文を繰り返させる。このピクチャー・シートでは、基本文と合わせ、6文ある。教室の列数に合わせるとよい。

図 2 板書計画 (ピクチャー・シート)



### 2.1.3 絵や写真 (A4) の準備

ピクチャー・シート (板書計画書) が完成したら、A4 サイズで絵や写真の印刷をする。教室の後ろから見て、B4 や A3 サイズの方が見やすいが、黒板にマグネットで貼り、その下に板書することを考えると、A4 サイズがよい。絵や写真は、教室の後ろから見てわかるように、単純なものを選ぶとよい。仕上がりがきれいなので、写真用紙に印刷している。絵や写真の裏に、教科書のページ、単元、絵や写真を貼る順番、絵や写真の下に書く語句を書いておくと便利。

### 2.1.4 文法事項用オーラル・イントロダクションの原稿作成

絵や写真、ピクチャー・シート (板書計画書) が完成したら、生徒とどのようにやりとりしながら、文法事項の導入をするかを考え、原稿にまとめておくとよい。次は、文法事項用オーラル・イントロダクションの原稿の例である。導入しようとする基本文は次である。

基本文 22      The dolphin is larger than the tuna.

                  The blue whale is the largest in all animals.

この基本文には、比較級と最上級の 2 つが扱われている。

#### 文法事項用オーラル・イントロダクションの例

##### 導入 Oral Introduction

【基本文の導入】※イタリック体は予想される生徒の発話

(イルカの絵を掲げて) Please look at this picture? Do you know what this is? Yes. *It's a dolphin.* That's right. (といて、その絵をマグネットで黒板に貼り、その下に、

dolphin と板書。)

【イルカとマグロの大きさの比較】

(マグロの絵を掲げて) Please look at this picture? Do you know what this is? Yes. *It's a tuna.* That's right.

(黒板に貼ったイルカの絵と手に持っているマグロの絵を交互に指さしながら)

By the way, which is larger, the dolphin or the tuna? *The dolphin is.* That's right. The dolphin is larger than the tuna.

(といて、その絵をマグネットで黒板に貼り、その下に、tuna と板書する。)

(その後で   (e)r than .  
the dolphin is large the tuna

と板書する。) large の語尾に r がつくと、「より大きい」という意味になります。e で終わっている単語は r だけつけます。than は「～より」という意味で、比較するときの相手の前におく前置詞です。比較級という。(The dolphin is larger than the tuna. の文を 2 回全員で練習する。)

(シロナガスクジラの絵を掲げて) Please look at this picture? What is this? *It's a blue whale.* That's right. The blue whale is the largest of all animals.

(といて、その絵をマグネットで黒板に貼り、その下に、blue whale と板書する。)

(その後で、 the  (e)st .  
the blue whale is large of all animals

と板書する。) large の語尾に st がつくと、「一番大きい」という意味になります。e で終わっている単語は st だけつけます。the をつけます。これを最上級といいます。(The blue whale is the largest of all animals. の文を 2 回全員で練習する。)

【英文が使われる状況を明確にした文型練習】

【英語と数学の比較】

(英語を勉強している絵を掲げて) Please look at this picture? What subject is this? *It's English.* That's right. (といて、その絵をマグネットで黒板に貼る。)

(数学を勉強している絵を掲げて) Please look at this picture? What subject is this? *It's math.* That's right. Which is easier, English or math? *English is.* O.K. English is easier than math. Easier は y が i に変わって、er がつきます。(といて、その絵をマグネットで黒板に貼り、English math easy と板書する。English is easier than math. の文を 2 回全員で練習する。)

以下、生徒とやりとりをしながら、基本文の練習文を紹介する。

次に、絵や写真を使い、題材内容の導入をする方法を具体的に紹介する。

## 2.2 題材内容の導入

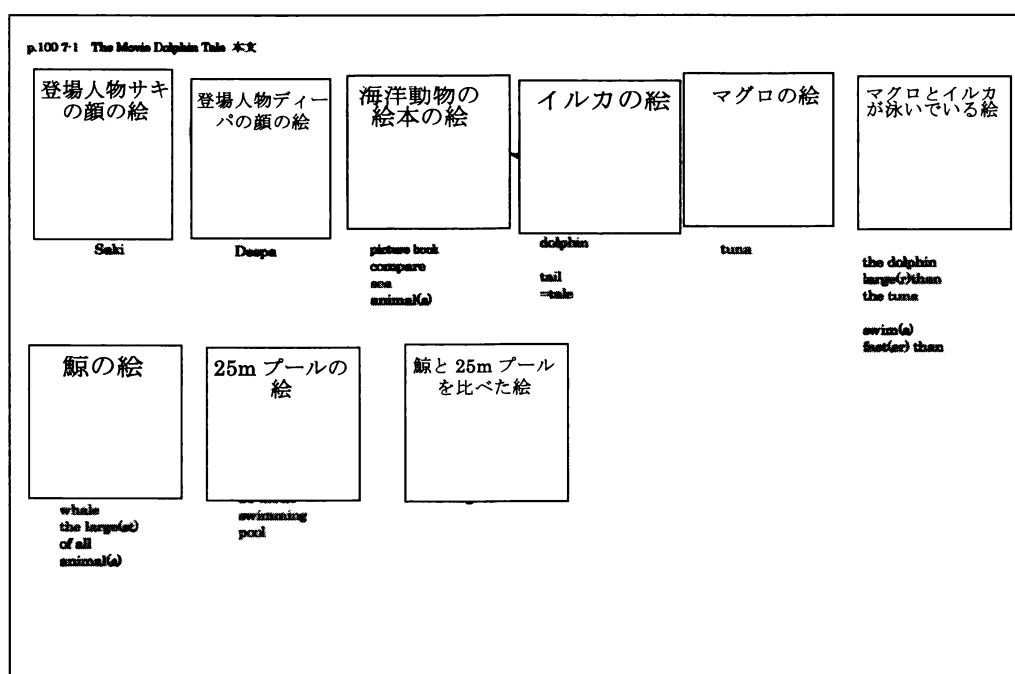
### 2.2.1 題材内容用ピクチャー・シート(板書計画書)の準備

最初に、題材を読み、いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのようにしたかなどを読み取る。次に、場面や状況がわかるように、必要な絵や写真を集める。絵や写真は、教科書やデジタル教科書の挿絵、インターネットなどから入手できる。文法事項の導入と同様に、インターネットの検索で「画像」を選ぶとさまざまな絵や写真が収集できる。

### 2.2.2 題材内容用ピクチャー・シート(板書計画書)作成

まず、題材に合わせて、下書きをする。だいたい決まったら、右のようなピクチャー・シート(板書計画書)を作る。(図3)

図3 ピクチャー・シート(板書計画)



### 2.2.3 題材内容用オーラル・イントロダクションの原稿作成

オーラル・イントロダクションは、15分程度なので、そこで扱う内容と、その後の「説明(explanation)」で扱う内容を、事前に分けておく必要がある。教科書の題材内容をほぼ暗記しておく必要がある。

次は、題材内容のオーラル・イントロダクションの原稿の例。

**導入** Oral Introduction ※イタリック体は予想される生徒の発話

(サキの絵を掲げ) Look at this picture? Do you know who this girl is? *Yes, she is Saki. That's right.*

(といて、その絵をマグネットで黒板に貼り、その下に、Saki と板書する。)

(ディーパの絵を掲げ) Look at this picture? Do you know this girl? *Yes, she is Deepa. That's right.*(といて、その絵をマグネットで黒板に貼り、その下に、Deepa と板書する。)

**新出語句** (斜線の赤字で書いた新出語を指さしながら) Please repeat after me. (その単語や語句を2回全体で練習したあとで、窓側の列から、一人ひとり次々と指さし、発音させる。その列の一番後ろの生徒が発音したら) class(とって、全員にもう一度、発音させる。)

以下、絵や写真を掲げ、生徒とやりとりをしながら、本文の内容を導入する。新出語句は黄色のチョークで書き、その都度、列ごと練習させる。

指名は、多くの生徒が発言できるように、列ごと順番に指名するなどがよい。YesかNoで答えられる質問にし、Noの場合には、Any volunteers?などといって、有志に答えてもらおうとよい。

以上が、オーラル・イントロダクションの原稿。オーラル・イントロダクションで触れる内容と、次の「説明」で触れる内容と分けておく。

#### **説明** Explanation 例

Please open your textbook to page 100.とって、教科書を開かせて、次の説明をする。

- ① 1行目の Let's compare ...は、「～を比較しましょう。」
- ② 1行目の the dolphin のtheは、図鑑に出ている dolphinのことを指しているのので、aではなく、the。

以下、省略。次はオーラル・イントロダクションで取り上げた題材内容を聞かせたり音読練習をしたりするが、オーラル・イントロダクションにあたっては、次に示すシャドー・ティーチングを行うとよい。

#### 2.3 生徒のいない教室で事前に練習 (シャドー・ティーチング shadow teaching)

絵や写真、ピクチャー・シート (板書計画書) ができたら、生徒のいない教室で、黒板を使って、写真や絵を貼って練習するとよい。実際に、絵や写真を黒板に貼ってみると、貼る間隔や位置がわかる。時間を計りながら、15分以内でできるようにする。生徒が聞いていないと効果がないので、生徒が集中できるように、声の大きさなどを考える。

### 3 題材内容の音読練習

#### **Model Reading**

オーラル・イントロダクションと題材内容の説明が終わったら、題材内容全体を聞かせる。教師が発音してもよいが、CDやデジタル教科書の音声を使うことも考えられる。

#### **Chorus Reading**

一文一文聞かせて、クラス全体で、繰り返させる。生徒がうまく繰り返せないときは、意味のかたまりごとに(sense group)に区切って、繰り返させる。意味の区切りや発音、アクセント、イントネーション、リズムなどに注意して練習させる。3回程度、全体で音読練習をする。

#### **Buzz Reading**

クラス全体を起立させ、3回程度音読練習をさせる。終わった生徒は座って、更に指示があるまで練習をさせる。生徒が練習をしている間に、一人ひとりの生徒の練習を聞く。課題がある場合には、その場で助言する。生徒によって、読む速さに差があるので、座ってからも練習するようにしないと、読むのが遅い生徒が目立ってしまい、練習しにくくなる。

#### **Chain Reading**

窓側の列の前の生徒から、一人一文ずつ読ませる。意味の区切りや発音、アクセント、イントネーション、リズムなどに課題がある時は、その場で、教師がモデルを示し、うまくできるまで繰り返させる。うまく発音できたら、教師が class といって、クラス全員にも発音練習させる。これは、他の生徒にも、同様な課題がある可能性があるからである。

#### **Individual Reading**

その後、順番に、数名の生徒を指名して、クラス全体の前で音読させる。教師は、その音読を評価する。

### **4 「話す」活動と「書く」活動へ**

#### **4.1 題材内容のピクチャー・シート(板書計画書)を使って「話す」の活動へ**

題材内容のピクチャー・シート(板書計画書)を生徒に配布し、本文と全く同じでなくてもよいので、自分の言葉で、題材内容の概要を再現できるように個人で、準備させる。

だいたいできるようになったら、ピクチャー・シートの絵や写真を指し示しながら、ペアで交互に題材内容を再現させる。(Story Retelling)。

最初のペアでの発表が終わったら、別のペアで発表させる。違った生徒とペアになり、お互いに発表することによって、様々な英文に触れることができる。

最後に、数人に、全体で発表してもらおうとよい。

題材内容と全く同じ英文では、独自性がないので、自分の言葉で、発表させることに意味がある。

#### **4.2 題材内容のピクチャー・シート(板書計画書)を使って「書く」の活動へ**

題材内容のピクチャー・シートを使って、今度は、本文と全く同じでなくてもよいので、自分の言葉で書かせる。書き終わったら、ペアでお互いに発表させる。ペアを替えて発表させると、様々な英語にふれることができる。最後に、数人に、全体で発表してもらおうとよい。

### **5 1 単位時間の3つの授業スタイル**

#### **5.1 授業の流れ**

文法事項中心の授業スタイルは1単位時間。題材内容中心の授業は2単位時間かかることが多い。3単位時間の授業の流れを紹介する。

#### 文法事項の中心の授業の流れ（1単位時間）

目標(goal) larger, largest がわかる。

#### 授業の流れ(Procedure)

- ① warm-up
- ② 前時の復習

前時の題材内容中心の授業を絵や写真を使って、再現する。3回目になるので、できるかぎり、生徒に発言させる。その後で、全体で本文を音読する。

#### 授業のヤマ場(Climax)

- ③ 文法事項のオーラル・イントロダクション（約15分間）

絵や写真を使って、生徒とやりとりをしながら、基本文とその練習文を導入し、パターン・プラクティスをする。

- ④ 教科書の基本練習などをする。
- ⑤ 基本文に合った言語活動をする。
- ⑥ まとめと宿題の確認

#### 題材内容中心の授業の流れ（2単位時間の1時間目）例

目標(goal) 本文の内容がわかる。

#### 授業の流れ(Procedure)

- ① warm-up
- ② 前時の復習

文法事項中心の授業の復習。絵や写真を使って、再現する。2回目になるので、できるかぎり、生徒に発言させる。その後で、別の例文がくるように、列ごと言わせる。

#### 授業のヤマ場(Climax)

- ③ Oral Introduction(題材内容のオーラル・イントロダクション、約15分程度)  
絵や写真を使って、生徒とやりとりをしながら、題材内容を導入する。
- ④ Explanation（オーラル・イントロダクションで触れなかったところを説明する）
- ⑤ Model Reading（教師が読んで、本文を聞かせる。CDやデジタル教科書使用可）
- ⑥ Chorus Reading(全体で音読練習。教師が読んだあと、繰り返させる。CDやデジタル教科書使用可)
- ⑦ Buzz Reading(起立させ2回音読させる。座っても、全員読み終わるまで音読させる。教師は、生徒の音読をモニターし、必要に応じて助言する。生徒から読み方を聞かれることもある。)



- ⑧ Chain Reading (一人一文ずつ読ませる。棒読みときは、言い直しをさせる。言い直させたときは、他の生徒も同じ状態のことがあるので、class といって、全体にも練習させる。)
- ⑨ Individual Reading (順番に、一段落ごとに、数名読ませる。会話のときは、話者ごとに数名に指名する。教師は、音読の評価をする。)
- ⑩ Questions and Answers など (True or False Questions でもよい)
- ⑪ まとめと宿題の確認

#### 題材内容中心の授業の流れ (2 単位時間の 2 時間目) 例

**目標(goal)** 本文の内容を再現できる。言える。書ける。

#### 授業の流れ(Procedure)

##### ①warm-up

##### ②前時の復習

題材内容を絵や写真を使って、再現する。2 回目になるので、できるかぎり、生徒に発言させる。その後で、全体で本文を音読する。Overlapping や Shadowing をさせてもよい。

#### 授業のヤマ場(Climax)

##### ③題材内容のピクチャー・シート(板書計画書)を配布し、「話す」の活動へ

ピクチャー・シートを見て、個人で、題材内容をだいたいので、再現して、言えるようにする。次に、ペアで、その内容を英語で発表しあう。ペアを替えて発表しあう。数人、クラス全体で発表する。

##### ④ 題材内容のピクチャー・シート(板書計画書)を使って「書く」の活動へ

ピクチャー・シートを見て、個人で、題材内容をだいたいので、再現して、書く。次に、ペアで、書いたものを発表しあう。ペアを替えて発表しあう。数人、クラス全体で発表する。

##### ⑤ まとめと宿題の確認

#### 5.2 授業の目標、流れ、ヤマ場を板書してから授業をはじめる(ユニバーサル・デザイン)

授業の始めに、授業の目標、流れ、ヤマ場を黒板の隅に板書してから始める。生徒にとっては、目標を明示して、授業の流れがわかり、ヤマ場がどこかわかった方が理解しやすい。また、黒板に明示することによって、教師にとっても、授業を明確化する意味がある。

## 6 まとめ

文法訳読式の授業が否定されたあと、タスク中心の言語活動が場当たり的に行われている観があった。絵や写真を使い、生徒とやりとりしながら本文を導入し、板書内容をプリントにし、それを見ながら本文の内容を生徒自身の英語で言わせたり書かせたりする方法

は生徒の反応もよい。語学教育研究所が開発したこの授業スタイルが広まり、中学校修了時に、CEFR-JのA2レベルが達成できたらと思う。

#### 参考文献

笠島準一,関典明(編著). (2016). NEW HORIZON ENGLISH COURSE 東京書籍.

浜島書店編集部. (2016). Step Up Talking 浜島書店.